

令和5年度 入学試験出題意図

教科・科目名	英語、ドイツ語、中国語	問題番号	問題 1
対象学部・ 学科・課程等	大学院芸術文化学研究科（比較芸術学・民族音楽学・芸術表現 各研究領域）		
出題意図	主として英国における、1970 年代後半のレゲエやパンク・ロックといった、サブカルチャーの、社会的相関について論じた、ディック・ヘブディッジによる古典的文献からの出題。現代文化に関する、今日においては一般教養的内容であるため、語学力および文化的知識を測るには適切なものであると判断した。 （１）では英語を日本語に訳す力を判断し、（２）では、文法と、当該文脈についての内容理解を判断する。		
教科・科目名	英語、ドイツ語、中国語	問題番号	問題 2
対象学部・ 学科・課程等	大学院芸術文化学研究科（比較芸術学・民族音楽学・芸術表現 各研究領域）		
出題意図	Kirsten E. Shepherd-Barr, <i>Modern Drama: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press, 2016) からの抜粋。ブレヒトの「Verfremdungseffekt」（異化効果）について、ブレヒトの意図や概念成立の背景、またその効果について解説されている。 （１）では文法を的確に把握して英語を日本語に訳す力を判断し、（２）では、文脈に沿って英文の内容を正確に理解し、説明できるかを判断する。		

令和5年度 入学試験出題意図

教科・科目名	英語、ドイツ語、中国語	問題番号	問題 1
対象学部・ 学科・課程等	大学院芸術文化学研究科（比較芸術学・民族音楽学・芸術表現 各研究領域）		
出題意図	音楽学者ダールハウスが絶対音楽を論じたテキストの一部。同一の概念が時代と共に意味や指示内容を変化させることに注意を向けたもので、博士課程で行われる専門研究の方法や芸術史の基本認識を深めていくことができる水準でのドイツ語の素養を問うものとなっている。 （１）ではドイツ語を日本語に訳す力を判断し、（２）では文脈に即した語の理解を判断する。		
教科・科目名	英語、ドイツ語、中国語	問題番号	問題 2
対象学部・ 学科・課程等	大学院芸術文化学研究科（比較芸術学・民族音楽学・芸術表現 各研究領域）		
出題意図	音楽学者マルティン・ゲックによるベートーヴェンの評伝からの抜粋。第 1 パラグラフでは、18 世紀後半における音楽家の社会的・経済的な立場から説きおこし、彼以前の世代の音楽家とベートーヴェンの音楽家としてのあり方の違いを論じ、第 2 パラグラフでは、伝記的エピソードから、自立した芸術家としてのベートーヴェンの意識のあり方を説明している。 （１）では文法を的確に把握してドイツ語を日本語に訳す力を判断し、（２）では、要約から文脈に沿って内容が理解できているかを判断する。		

教科・科目名	英語、ドイツ語、 <u>中国語</u>	問題番号	問題 1，問題 2
対象学部・ 学科・課程等	大学院芸術文化学研究科（比較芸術学・民族音楽学・芸術表現 各研究領域）		
出題意図	外国語の出題は、芸術文化学研究科で研究するために必要な基礎的能力を問うとともに、理解した内容を現代日本語の文法や表記法に沿って論理的に表現する力を問うものである。ただし、専門的知識の有無そのものを問うものではない。 ㊦の出題文は北宋の儒者である周敦頤の「愛蓮説（愛蓮の説）」（出典：『周濂溪先生全集』巻八）の全文である。作者・周敦頤が愛してやまない「蓮」について、その愛好する理由を、陶淵明が好んだ「菊」や衆人に愛された「牡丹」との比較で述べる一方で、「蓮」を作者の理想とする「君子」像に擬え、「蓮」に擬えるべき「君子」の少ないことを慨嘆した文章である。中国の古い文献を読み、適切な日本語を用いて内容説明ができるかを問うものである。 ㊧の出題文は、中国共産党中央委員会の機関紙『人民日報』の姉妹紙である『環球時報』（環球時報）の現代中国社会を紹介した記事である。出典は環球時報の記事「“虽然我们老了，但我们心态好”，为什么抖音上退休老人越来越多？（“私たちは年をとっていますが、心は元気です”、なぜティック・トックには定年した高齢者がますます増えているのか？）の一部抜粋したもので、引用した部分は定年した高齢者は今までのイメージと違い、積極的にティック・トックなどに投稿し、自分の日常を紹介している様子を述べている。文中に綴られた事象や感情の描写を的確に読み解き、簡潔な日本語で表現する翻訳力を測るものである。		